

稲荷神（いなりのかみ、いなりしん）は、稲を象徴する穀霊神・農耕神。「稲荷」とは食物の神（ウカノミタマ）、キツネ（御食津神）、油揚げ、稲荷寿司、旅芸人が町回りで立てる細長い旗などを指す言葉。稲荷大明神（いなりだいみょうじん）、お稲荷様、お稲荷さんともいう。「稲成り」の意味だったものが、稲を荷なう神像の姿から後に「稲荷」の字が当てられたとされる

元来は五穀豊穡を司る神であったが、時代が下って、商売繁昌・産業興隆・家内安全・交通安全・芸能上達の守護神としても信仰されるようになった

＝京都伏見稲荷の祭神＝

宇迦御霊神（うかのみたまのおおかみ）倉稲魂命とも書くが、伊奈利山（いなりやま）に降りた日が和銅4年2月11日（午の日）であった

「初午祭」

大在家八雲社の「稲荷大明神」は京都伏見稲荷様からご神体を拝領しています

初午はその年の2月最初の午の日の前夜に御祈禱を執り行うのが伝統となっている